27PW-am004

培養ラット胎児へのタミフルの影響

○横山　篤[1], 秋田　正治[1]([1]神奈川生命研)

（目的）今年もインフルエンザが猛威を振るっている。しかも、若年期において異常行動と特効薬タミフル（リン酸オセルタミブル<OTB>）との関与はいまだ不明である。我々は培養ラット胎児を用いて、胎生期の脳神経系への OTB の影響を観たので報告する。

（方法）培養ラット胎児はラット胎齢 11 日目から 48 時間の回転培養を実施した。OTB の処理濃度は、750μg/ml 処理とし培養液内投与法で行った。

（結果）培養ラット胎児の成長・発育指標は心拍数・頂殿長・総体節数・総重量・頭長・神経管の画像解析値・外表形態で対照群と OTB 処理群とで影響を比較した。頭長において OTB 処理群は対照群に比べて 5 %、神経管の画像解析値は 11%の低下を示した。それ以外の指標は対照群と差はなかった。外表も奇形などの異常は認められなかった。

（考察）若齢のラット胎児の脳神経管の発育に影響ある点と、すでに出来上がった思春期の脳での異常が同一障害とは考え難いが、その関連性を追及していく。